只だ〳〵お目出度う存じまする」若「ォ、石部か、予が毎日所在がない、盤將手合せ致したい、其方は盤將の心得があるか」金「ハツ、石部は餘程強いのでござる」若「此奴好い年をしながら物に遠慮をすることを知らぬ奴ぢやな、己れの事を自慢する奴があるか……では聊か心得居るな」金「イヤ、餘程強いので御座ります」若「怪體な爺やな……然らば予の相手を致すか」金「何時なりとも御相手仕ります」若「坊主、盤を持て……」茶坊主が又夫へ將棋盤を持つて來て駒を並べまするとの。若「コリヤ石部、其方予に不覺を取つたならば其方の頭是なる鐵扇を持つて打つぞ」金「ハツ、姿細承知致しました、若し殿がお敗けになつたら」若「默れ、主が家來に敗けると云ふ法やあらん」金「そりや不可ません、手前とても打たるれば痛ふ御座ります、況してや老年に成りまして頭の毛も薄くなつて、斯くの通り禿げて居りますから、成るだけ打たれぬやうに致します」若「萬一予が敗けたら其の儘ぢや」金「ヘーッ」若「其の儘ぢやわい」金「其の儘……其の儘……夫れは何と云ふことを仰せになります、貴方も紀伊國名草郡虎伏山五十五萬石の御大守で御座らんか、敗けたら其の儘とは何ちゆうことを仰せになる承はれば他の家來は皆二つづゝぢやさうで御座いますが、石部は若君だけお負け申して三つ打ちますぞ」若「默れッ、石部、己れ下司下郎の分際として主の頭を美事打つか」金「何でもない事打つてお目に懸けませう」若「ェッ、豪い爺やナ、怒りよつたぞ、こりや叶はん、お父さんも爾う云ふてお在でになつた、石部には叶はんと強い奴ぢやわい」金「宜しう御座りますか」若「宜いッ」金「鐵扇をモツト此方へお出しあそばせ、モツト此方へ……」若「石部奴、勝たん先から私を毆る氣になつて居やがる」金「斯樣なことを申せば釋迦に說法をする樣で御座るが、駒の働きは御存じで御座いませうな」若「ウーム」金「あの銀は横に寄れませんぞ」若「ア、、宜い〳〵、寄つても構はん、金を斜に下つて入合せをする」金「そんな亂暴なことは不可ません、亂世に金銀の狂ひは當然などゝ云ふ二輪加みたやうな事は石部は嫌ひで御座ります」若「可怪しな爺ぢやな」金「併し此の銀とても向方の地面に入つて全く成つた時には今までの働きは廢してしまひまして、金の資格に成りまする、宜しう御座りますか」若「フム、宜い〳〵」金「桂馬は横へ一つ向方へ三つづゝ飛ぶもので御座りますが、これも向方の地面へ入りまして全く成る時は今までの飛ぶのを廢して、金の資格になりまする、香車は向方へ八つまで飛べまする、これも又向方へ入つて成つた時には金の資格になりまする、角はあれは斜限りのもので向方の地面へ入つてしまつた時には縱横に一つづゝ寄る事が出來る、飛車は縱横限りのもので御座いますが、これも向方の地面へ入つて成つた時には斜に寄ることを一つづゝ許しまする」若「嫌に固い爺やな、宜いわい」金「宜しうございますか、そこで愈よ王が詰つた時に予の王は右大將頼朝公の末弟にいたして幼名牛若丸成長の後源の義經となつて八艘飛など、それは前以てお斷り申して置きますぞ」若「アツ、此の爺奴彼方で聞いて來よつたな、宜い〳〵」金「夫れでは金ですか、歩ですか」若「金か歩かとは何ぢや」金「先手後手を爭ひます」若「默れ、主が家來より後に行くと云ふ法や